

一般演題1 O1-1

静岡県東部ドクターヘリの取り組み—WEB会議の有用性—

鬼塚味佳¹⁾ 橋本 瞭¹⁾ 田上佑一¹⁾ 柳川洋一²⁾

1) 順天堂大学医学部附属静岡病院 看護部
2) 順天堂大学医学部附属静岡病院 救急診療科

【背景】

順天堂大学医学部附属静岡病院は、2004年より静岡県東部ドクターヘリの基地病院として運航を開始し、2021年度は866件の出動を行っている。静岡県伊豆地域には、有数のダイビングスポットがあり、ダイビング関連事故は減圧症を疑いドクターヘリで対応を行っている。事故発生現場を稲取から東西に分け、第二種装置を有する静岡済生会総合病院と神奈川県東海大学医学部附属病院へ搬送している。そのために、治療に必要な情報をダイビング事故チェックリストを活用しながら情報収集をしている。ダイビング関連事故の早期ドクターヘリ要請やダイビング事故チェックリストの運用を周知するために2011年よりフライトスタッフ、ダイビング関係者、消防、海上保安庁など他機関を含めた合同勉強会を対面式で毎年開催していたが、2019年よりCOVID-19の影響により開催が不可能となった。そのため、2021年度ではWEB会議システムを用いた合同勉強会を開催した。

【目的】

今回、WEB会議システムを用いた合同勉強会の有用性や取り組みについて報告し、合同勉強会について今後の課題を明らかにする。

【結果】

WEB会議システムを用いた合同勉強会は、2022年2月に開催した。参加者は消防180名、ダイビング関係者55名、フライトスタッフ9名、他病院の医師3名であった。勉強会内容は、当院医師からの減圧症講義、ダイビング事故チェックリストの運用状況の紹介、事例検討を行った。勉強会終了後アンケートでは、勉強会自体の満足度は、とても満足である66%、満足である34%の回答であった。WEB会議を活用した勉強会の満足度は、とても満足である71%、満足である20%、不満である9%であった。今後の勉強会開催方

法については、WEB会議を希望90%、ハイブリッド開催7%、会場開催2%、どちらでも良い1%であった。アンケート結果からWEB会議を用いた合同勉強会の有用性は、移動時間の短縮、会場の収容人数にとられない参加人数の増加、伊豆地域外のダイビング関係者の参加、搬送先病院の医師、第二種装置で治療を担う医師の参加が可能であった。しかし、対面式で開催をすることで顔の見える関係を築きたいとの意見もあった。また、参加者の要望でダイビング事故チェックリストの電子媒体化を希望する意見もきかれた。

【考察】

WEB会議を用いた合同勉強会の開催は、参加者が増加し、コロナ禍でも意見交換を行えたことが有用である。満足度が高く、現代の背景に即しており今後も活用するべきであると考えられる。しかし、顔の見える関係性を望む意見もあり、現地開催とWEB会議を取り入れるハイブリッド開催ができることが望ましい。また、現在までの対面式の勉強会では伊豆地域のみ関係者の参加であったが搬送先病院の医師の参加により、直接意見を聞くことができ連携強化につながると考えられる。伊豆地域外のダイビング関係者が勉強会に参加することで伊豆地域の取り組みを知り、勉強会の開催が啓発活動となると考えられる。

【結語】

当院のWEB会議システムを用いた減圧症合同勉強会について報告した。参加者の要望に応え、顔の見える関係性を保ちつつ合同勉強会を継続し連携強化していくことが今後の課題である。